

日本ラトビア音楽協会事務局

〒229-0014 神奈川県相模原市若松1-14-10 遠藤税理士事務所内
Tel 042-745-3334 Fax 042-740-4725
E-mail 0424668801@jcom.home.ne.jp

発行代表者

加藤晴生
〒277-0823 千葉県柏市布施新町2-18-9 Fax 04-7132-5423
Tel 03-3568-7227 Fax 03-3568-7229
E-mail katohr@earth.ocn.ne.jp
kato@heisei-business.co.jp

編集代表者

徳田浩
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田3-31-6-504 柔道新聞編集室
Tel・Fax 03-3203-0363
E-mail htoku@pastel.ocn.ne.jp

平成19年度理事会・総会・新年会

3年目迎えた日本ラトビア音楽協会

第3回指揮者交流、楽譜出版など多彩な事業展開目指す

日本ラトビア音楽協会は1月21日(日)、新宿三井クラブで平成19年度理事会、総会、新年会を開いた。3年目を迎えた協会事業は着実に前進を続け、各方面からの期待も高まってきた。会員数も全国的に漸増を続け、当協会のもう一つの目的である会員相互の親睦もますます深まりつつある。新年会には当協会名誉会員のヴァイヴァルス・ラトビア大使の他、大使館員5名も出席し、和気あいの懇談と多彩なパフォーマンスに時の経つのも忘れた。

平成19年度第1回理事会

総会に先立ち11時から理事会が開かれ、18年度事業・決算報告、19年度事業計画、予算、人事、その他の案件が全て承認された。

平成18年度事業報告

(加藤専務理事)

①在日本ラトビア共和国大使館開設(4月)に関する諸行事

・4月20日 アイガルス・カルヴィティス首相の訪日記念レセプション(首相主催・帝国ホテル)

・10月1日 当協会主催のヴァイヴァルス初代大使歓迎会(新宿三井クラブ)

・11月15日 大使館主催のラトビア共和国独立記念日祝賀レセプション(帝国ホテル)

②第2回子供のための指揮者交流プロジェクト

11月26、27日に東京オペラシティコンサートホールで行われた第35回NHK東京児童合唱団の定期演奏会で、当協会が招聘したラトビアの指揮者アイラ・ビルジーニャさん(会員)に、第4ステージでラトビアの歌を指揮してもらうことが実現した。2晩で3000人余の聴衆が来場し、ラトビアの歌を広める絶好の機会となった。

今年5月に天皇陛下がラトビアを訪問されるので、この演奏会の模様を事前に現地マスコミ(TV、ラジオなど)に採り上げてもらうなど検討している。

③協賛広告スタート

大鵬薬品様による協賛広告出稿がスタートした。『Latvija』に3回(4号～6号)、N児35回定演パンフレットに1回、計4回出稿され、3月上旬発行予定の第7号への出稿(計5回)で18年度年度の予算は終了の予定。19年度分については交渉中。

④5つの事業後援

・2月22日 ケイコ・マクナマラ「福島コンサート」

・9月11日 バイバ・スクリデ「バイオリンコンサート」

・9月23日 朗読劇『溺れる花嫁』(紀尾井ホール24日まで)

・10月30日 ソルヴェイガ・サルガ「ピアノ・リサイタル」

※ 作曲家兼ピアニスト。ラトビアで今人気が高い。

・11月3日 女声合唱団『フラウリッヒ・ヴォカール演奏会』(徳島)

⑤その他

・カルヴィティス首相が来日してからNHK、民放がラトビアを採り上げる機会が増えている。6月にはNHK衛星放送が1時間規模のラトビア紹介番組を放送した。

・アイラさん招聘の資金確保を目的にして、『Latvija』第4号に名刺広告募集を行い、匿名掲載希望を含めて24万円の収入があった。当協会は非営利団体で難しい面はあるが、運営上必要なので収入増のためいろいろの対策を考えていきたい。

・ホームページは中断中だが4月には新しくしてスタートできる見込み。音源のほうはラトビア側の著作権の許可取得のため、数ヶ月遅れる見込み。

平成19年度以降の活動計画

(加藤専務理事)

①第3回子供のための指揮者交流プロジェクト

本年10月末～来年1、2月にリーガに日本から指揮者を派遣する予定。指揮者兼「日本の歌」紹介者として、山本健二さんを予定している。

②2008年のリーガでの『歌の祭典』への参加

当協会がどういう形で取り組むかについてチームを組んで急ぎ検討す

ヴァイヴァルス大使、雨の東京マラソン完走

目標5時間切る、
4時間55分49秒

2月18日に行われた東京マラソンに、ベテリス・ヴァイヴァルス・ラトビア大使が挑戦し、生憎の冷雨の中を4時間55分49秒で完走した。この日はエギリス及びエディータ・トゼメ次席夫妻、オレグス・オルロフ館員(ただし当初から10キロ)も参加し、グナ・レイマンドーフ書記官が応援団長となって大使館全員が懸命に応援を続けた。レイマンドーフ書記官は日本在留ラトビア人代表10名とともにラトビアの国旗を振ってゴールに待ちかまえた。

大使は完走後、記者の質問に次のように感想を述べた。

“33キロで疲労がピークになったが最後は気力で走りました”

「フルマラソンは初の挑戦です。雨と風が強く、頭の先から服も、靴の中も、ぐしょぐしょになって最悪のコンディションでした。寒さはラトビアで慣れていますが、この氷雨にはラトビア大使館員全員がとてもこたえたようです。しかしながら、こんな悪コンディションで、全行程を4時間55分53秒で走り切ることができました。大会規定では7時間以内に走ることにしていましたので、ぜひ5時間以内で走りたくて頑張っていました。希望が実現できてとてもうれいですが、走る前は完走する自信がありませんでしたが、走り出すと最初の10キロをとて調子よく走れました。ただ最初の部分は、前後左右にランナーがいっぱいで、脇



目標の5時間を切り、
笑顔でゴールする大使

が擦り合うような混雑ぶりでした。20キロ過ぎた頃からとても走りやすくなり、これなら行けると自信ができました。20キロ時点では予定時間より1時間早い上々のペースでした。ところが25キロに差し掛かるとエネルギーが急速に下がってきました。おなかが減って何かたべたくなかったが、どこにも食べられるところはなかったし、33キロにさしかかると疲労でへとへとになってきました。それ以後は気力で走り続けました。東京マラソンにほぼ大使館員全員が一丸となって参加できたこと、そして目標としていた5時間以内で完走できたことに本当に誇りに思っています。駐日大使は100人以上いますが、出場して完走したのは私だけだと思います。

ヴァイヴァルス大使の完走は朝日新聞にも報じられたが、多くの日本人がラトビアという国に、確実に関心・親しみを深めつつある。大使の挑戦と快挙に協会からも大きな拍手を贈りたい。(S.T)

る。6月末までに参加するかどうか、参加するとすればどのような方法で行うかなどを決定する予定。

③ラトビア女声合唱曲集の出版

ラトビア側の楽譜関係者との約束もあり今年度には是非実現したい。

④日・ラ演奏家の交流促進とラトビア音楽の集い(仮称)の開催

『歌の祭典』参加と併せて内容を検討する。

⑤会員数の増強

現在着実に伸びてはいるが、紹介

する方が限られているのが実状。会員一人一人の積極的な協力をお願いしたい。現在の会員数は個人会員、団体会員合わせて150。会費会員は120名あまり。

平成18年度決算報告と

19年度予算案(遠藤専務理事)

収支についての説明があった後、国からの助成金など収入の増加に關することについての質疑あり。

(2面下へ続く)

プロ音楽家会員が次々に演奏を披露

新会員も多数参加し、充実した
懇談・談笑のひととき過ごす

平成19年度新年会

12時半から行われた新年会は、会員であるプロ音楽家の演奏が次々に披露される中、華やかな懇談・談笑の場になった。今年も司会進行役は**田摩勇新理事**が務めた。冒頭、**岡村喬生副会長**が「日本人は国際感覚に乏しく音楽的遺産が少ない。我々はずまずラトビアに学んで日本文化を向上させましょう」と挨拶（別掲）し、「両国の音楽文化の発展を祈念して乾杯！」と高らかに杯を上げた。

最初のパフォーマンスは、450年の歴史を持つ“居合い道”の登場。特別出席の**田中弘文さん**（居合道錬士6段）により新春演目『清めの剣』が披露された。ヴァイヴァルス大使はもちろん初めて見る会員が多かったようで、出席者は息を呑んで見守った。続いて**ヴァイヴァルス大使**が、次のように年頭挨拶し、協会に深い感謝の意を表された。

「こんにちは。藤井会長、加藤専務、理事、日本ラトビア音楽協会の皆様のお陰で名誉会員になり、今日はこの協会の総会に出席できて大変光栄です。この場をお借りして皆様にあけましておめでとうございますと申し上げます。日本ラトビア音楽協会のお陰でラトビアと日本の好ましい交流が続いています。2006年は今までいちばん記憶に残る一年でした。ラトビア大使館が去年開設されましたが、その時には日本ラトビア音楽協会のお陰でもうラトビアとのルートができていました。そのお陰で、去年ラトビアのカルヴィティス首相が2回、パブリック外務大臣も訪日しました。今年の5月には天皇陛下がラトビアを訪問されることになりました。日本ラトビア音楽協会にはこれからもいろいろな活躍してい

ただきたいと思います。我々は2008年に、ラトビア独立90周年記念日を祝います。2008年のイベントを東京と神戸で大使館として開催することを考えています。交流を一層深めるために、文化と音楽の役割は非常に高いと思います。協会の方々に様々な提案、アドヴァイスを寄せていただければ非常に嬉しいと思っています。これまでのご尽力に心から感謝を申し上げ、今年が皆様にとって素晴らしい年でありますように心からお祈りいたします」。（通訳＝オレグス・オルロフス大使館員）

◇

ここで、昨年11月26・27日のNHK東京児童合唱団の定期演奏会で、アイラ・ビルジーニャ女史がタクトを振ったDVDによる音声・画像が会場に流された。これは同合唱団事務局のご好意で貸し出されたもの。

続いて**白井朝さん**が紹介されバイオリン演奏。ピアノ伴奏は**潮田侑樹さん**。演奏曲はクライスラー作曲の「ベートーベンの主題によるロンディーノ」「テンポ・ディ・メヌエット」「シンコペーション」の3曲。白井さんは当協会の会員である早稲田大学総長・白井克彦氏夫人（東京芸大卒）、塩田さんはベルリン芸大を首席で卒業したという強力コンビ。明るくさわやかなバイオリンとピアノの音色が会場一杯に響いた。

歓談の中、この日初めて出席された石渡迪康、野村恵美子、小野啓祐、小俣泰英、中田彪・廸子夫妻、落合博康、川島泰彦、稲山輝機、藤田昌嗣、洞口和夫、白石仁章、矢田廣・寛子夫妻、矢田ひろ（お嬢さん）、市川貞夫、清水寛、風呂本佳苗、小島逸介、堀口大樹、北条哲男・陽子夫妻（敬称略）の各会員が紹介され会は一層和やかに…。

ここで**北条陽子さんの**ピアノ演奏。「100人一首」の中の一音を琴の音色のイメージで作曲した中島はる作曲

◇

以上の案件は全て理事会で承認され、総会に諮る運びとなった。

最後に岡村喬生副会長が「理事会は充分審議するためにもっと多くの時間を充てること」、藤井会長が「運営に当たってこれからも細かい案件が盛りだくさんなので、理事会、運営委員会を十分活用する必要がある。2008年の『歌と踊りの祭典』にどうかかわっていくかがこれからの大きな課題」「協会として参加するのなら何か成果のある形が必要（副会長）」などの発言があり、理事会を終えた。

【理事会出席者】15名

「黒髪幻想曲」。あでやかで豊かな琴の音がピアノから正に湧き出るように聴き入った。3月19日(月)に津田ホール（千駄ヶ谷）で開く演奏会の招待券10枚が寄贈され、さっそく会員に配られた。

毎回プレゼントを提供している**板垣忠直顧問**（福島県芸術文化団体連合会副会長）が、今年も土産持参で登場。「最近もNHKテレビで紹介された組み紐で作った草履をお持ちしました。『編み上げわらじ』と言います。柔らかくて女性に人気のある実用品です（10足）。それに、福を呼ぶフクロウとして人気のある携帯ストラップの『福フクロウ』を10個お持ちしています」。いずれも福島県の知的障害者支援施設『すずらん工房』（会員の坂田知子さんが専務、板垣さんが監査役、板垣さんの三女が経営している）の製品だと説明された。

続いて司会者が、この日欠席の**久元祐子理事**から届いた電話メッセージを紹介。「協会の皆様のお陰で、ネット投票によるNECガラコンサートの出演者に当選できました。演奏会は3月29日(木)夜、紀尾井ホールです。よろしく願いいたします。本当にありがとうございました」。

宴が最高に盛り上がったところで**藤井威会長**がマイクをとり、ラトビアが5年に一度、国をあげて開催する『歌と踊りの祭典』の歴史を解説（別掲）。さすがに元ラトビア大使で、ラトビアへの深い思い・理解がにじみ出る蘊蓄の有る一語一語が、極めて興味深い内容だった。「大使在任中にラトビア各地で写真を撮ったが、もちろん祭典のシーンも入れて今年のカレンダーを作った。ところが売れなくて…」とジョークも入れて会場を沸かせた。

◇

さらに素敵な音楽の饗宴が続く。初参加・**矢田ひろさんの**ピアノ演奏は、ブラームスの『幻想曲・作品

116の1』を、しっかりしたタッチで弾き、盛大な拍手を浴びた。矢田さんは6月に日フィルの室内楽コンサート、10月にサンクト・ペテルスブルクで開かれるロシアの音楽祭にも出演される予定。

会も終盤に近づき、常連の**西脇久夫さん**（ボニージャックス）が登場した。「ボニージャックスが来年結成50周年を迎えるに当たって、2008年の北京オリンピックで歌うことを企画し、現地に5000人規模の合唱団を作って日本との交流を図ろうと推進している。中国はまだ合唱については創世紀なので、その発展のお手伝いをしたい」と話した後、「本当は合唱曲です」と断りながら自作の曲『雪の音』『あなたの笑顔』を早川佳身さんの繊細なピアノ伴奏でしっかりと歌い上げ、優しい言葉とメロディで会場を包みこんだ。

中締めは今年も北九州市から駆けつけた**山本徳行さん**（北九州スウェーデン名誉領事）。「来年の『歌と踊りの祭典』には是非、多くの人で参加したいと思っています。ここに出席している早稲田大学留学生の**アリナ・アセフェブコワさん**は、10年前にわたしがラトビアに行った時、12歳の小学生でした。去年念願がなつて、奨学金を貰って早稲田大学にいます。私は毎年ラトビアから留学生を日本語の研修のために短期で招待していますが、昨年12月21日のNHKとRKBによるラトビアの北九州でのコンサートが放送されて、彼女のテレビ映りがいいこともあって好評で大きな反響がありました。北九州は今ラトビアブームになっています」とアリーナさんを紹介。「こんにちは、アリーナです。去年北九州の山本さんのところのクリスマスに参加して、いろいろなところに連れて行ってもらい、日本のことをたくさん学びました」とあいさつ。最後は山本さんの『九州一本締め』でめでたくお開きとなった。

（1面から続く）

19年度人事（加藤専務理事）

基本的に前年度の役員が留任とする。ただし、大使館ができたことなど仕事量の増加に対処するために、運営委員の**額原信二郎氏**、**田摩勇氏**を新たに理事に加えたい。

額原氏はこれまで監事を務めていたので、後任に**稲山輝機氏**（毎日新聞社元専務）をお願いしたい。

運営委員に新たに資金調達力を強化するために**小俣泰英氏**、さらにラトビア側とのコミュニケーション強化のためにロシア語及びラトビア語に通じている**堀口大樹氏**（東京外語大生）の二人を加える。

藤井威会長、**岡村喬生副会長**、**加藤晴生専務理事**、**斎藤哲常務理事**、**遠藤守正常務理事**、**黒澤幸男常務理事**、**額原信二郎新理事**、**田摩勇新理事**、**稲山輝機新監事**（オブザーバー）**村山喜一郎顧問**、**山本徳行顧問**、**レディー・マークス寿子顧問**、**関口教和運営委員**、**小俣泰英新運営委員**、**川島泰彦**（日本ボーイスカウト静岡県連盟）

平成19年度総会

理事会に引き続き、新年度の総会が開かれた。

関口教和運営委員が司会進行し、**藤井威会長**の開会あいさつの後、金

岡隆運営委員を議長に選出して審議に入った。議事は以下の通り。

第1号議案 平成18年度事業報告

（加藤専務理事）

第2号議案 平成18年度決算報告

（遠藤常務理事）

※監査報告（額原監事）

第3号議案 平成19年度事業計画案

（加藤専務理事）

第4号議案 平成19年度収支予算案

（遠藤常務理事）

第5号議案 平成19年度役員案（加

藤専務理事）

以上について報告、提案が行われ、いずれも満場一致で承認を得た。（内容詳細は理事会議事参照）

会長・副会長挨拶＝新年会

ラトビア国民は“歌と踊りの祭典”を命がけて続けてきた

会長 藤井 威

「800年前、西暦1200年、日本でいうと源頼朝が鎌倉幕府を開いた頃ですが、ドイツからラトビアに宣教師がやってきます。宣教師はキリスト教を広げるつもりだったのですが、一緒に騎士団を連れてきていたため、その侵略が始まりました。1200年にドイツ騎士団領になって以来、ロシア領、スウェーデン領、またロシア領だとか一度も独立したことがなかったのです。そういう状態のもとで1872年に、『第一回歌と踊りの祭典』がリーグで開かれました。ロシア領、ポーランド領、スウェーデンの力もある、そういった各州が、同じラトビア語をしゃべっているそれぞれの州にある民謡を歌うための祭典が開かれることになったわけです。その時、祭典のテーマソングが作られました。最初の言葉は、“花咲く娘たちがいるラトビア、歌う若者たちがいるラトビア、われらが麗しの祖国ラトビア”。当時はロシア帝国の領土でしたから、“麗しの祖国ロシア”ならいいが“われらが麗しの祖国ラトビア”はいけないと、歌うことを禁止されました。1918年、第一次世界大戦が終わった段階でレーニンによるコムニズム革命がロシアで起こり、その時ラトビアは独立します。先ほどのヴァイヴァルス大使のごあいさつで、“来年はラトビアが独立して90年である”とおっしゃいました。彼は決して1991年独立とは思っていないのです。1918年独立なのです。そのときにこの“花咲く娘たちがいるラトビア、歌う若者たちがいるラトビア、ああわが麗しの祖国ラトビア”という、この『歌と踊りの祭典』のために作られた曲が『国歌』になります。その状態はわずか20年くらいしか続きません。1939年の第二次世界大戦の時にロシア軍（スターリンの赤軍）が殺到して、ラトビアは独立を失い、そのあとナチスの侵攻があります。ナチスが負け始めると再びソ連軍がやってくるというラトビアにとって暗黒、地獄の時代であったわけですね。そのあと連合国はラトビアについては何もしませんでしたので、そのままソ連領になりました。結局独立したのが1991年。その半世



藤井威会長

紀以上の間ラトビアでは5年ごとに細々と『歌と踊りの祭典』を続けていましたが、“わが麗しの祖国ラトビア”は歌えませんでした。1991年の独立によって、自由に民族衣装みたい、思いのたけ歌い、思いのたけ踊り、独立の喜びを表現することがやっと可能になったのです。1998年の『歌と踊りの祭典』には加藤専務理事、前会長の熊谷さんが主となって早稲田大学グリークラブOBの人たちが参加いたしました。その次が2003年、次の次が2008年なのです。この祭典はヨーロッパでは大変有名で、歌で民族意識を高揚して、我々はラトビア人なのだ、どんなことがあってもラトビアというのは独立と自由の国なのだということをこの祭典で表すことに命をかけていると言ってもいいと思います。したがって1991年の独立を、ラトビアでは『歌の革命（血を流さないで実現した革命）』と呼んでおります。

ということで『歌と踊りの祭典』とはどういうものなのか、2008年に240万人（そのうちラトビア人は150万人）の国民が命をかけて開く有名な祭典に、我々協会がどういうように関わっていくかということ、これから検討していきたいということです。私は2000年にラトビア大使を終えて帰国しましたが、その間家族とともにラトビア各地で写真をとってまいりまして、その写真をあしらった今年のカレンダーを作って有料でお分けしております。これはあつという間に売れると思っていましたら、ちっとも売れていません（笑）。この中の6月と7月のところの写真は1998年の『歌と踊りの祭典』のシーンを入れています。どうぞご覧ください。我々日本人にはなかなか分からないラトビアの歴史ではありますが、少しは参考になるかなと思っております。

ラトビアは音楽遺産をたくさん持つ国際感覚に富んだ国

副会長 岡村喬生

「日本人は国際感覚が乏しい。これは20年ヨーロッパにいて帰国したときの実感です。一方ラトビアはヨーロッパの列強に長くもまれてきた、国際感覚に富んだ国です。また音楽的遺産をたくさん持っています。日本は、世界に通じる音楽となるとまだまだ、ラトビアに学ばなければ



岡村喬生副会長

ならないところがたくさんあります。音楽交流については外国から入ってくるほうが圧倒的で、全く一方的。日本から出すものは少ない。そこで私は日本の国民オペラを作ろうという運動をやっている。例えば、『マダム・バタフライ』（ブッチーニ）にはたくさんの日本誤認があり、それを世界向けに訂正して外国に持っていかうとしたり、私一人で8役を務めるお金のかからない省エネオペ

ラに取り組んだりしています。日本ラトビア音楽協会は、日本の音楽を世界に、ということにおいても日本にとって大きなチャンスをもっている協会だと思っています。まずはラトビアに、ヨーロッパに学んで我々の文化を向上させようではありませんか。どうか大使はじめラトビアの皆さんも我々にご協力をいただき、実現できればと思います。」

総会・新年会出席者

◆ラトビア大使館関係

P・ヴァイヴァルス大使、G・レイマンドワ、O・オルロフス、本田尚代（秘書）、田中亨（顧問）

◆協会関係

藤井威（会長）、藤井明子、岡村喬生（副会長）、加藤晴生（専務理事）、斎藤哲（常務理事）、黒澤幸男（同）、遠藤守正（同）、西脇久夫（理事）、須原信二郎（同）、田摩勇（同）、稲山輝機（監事）、村山喜一郎（顧問）、山本德行（同）、レディー・マークス寿子（同）、関口教和（運営委員）、金岡隆（同）、小俣泰英（同）、堀口大樹（同）、Alina

Ascepkova（山本德行さん同伴）、Zaneta Sudniece（パレックス銀行）、OMAE（同）、石川晴彦、石川了、石川弥貴、石渡迪康、板垣忠直、市川貞夫、小川翠、落合博康、小野啓祐、川島泰彦、小畠逸介、桜井珊子、潮田侑樹、清水光子、清水寛、白井朝、白石仁章、滝澤文一、田中弘文、中田彪、中田迪子、野村三郎、野村恵美子、早川佳身、藤田昌嗣、風呂本佳苗、北条哲男、北条陽子、洞口和夫、矢田廣、矢田寛子、矢田ちひろ（現役早大学生）菊池勇介、志波昭宏、星雅貴、丹治亮介（以上62名、敬称略）

琥 珀

藤井威会長が新年の挨拶で「5年に一度開催される“歌と踊りの祭典”はラトビア国民が命がけて続けてきた国を挙げての催し。次の08年に当協会がどう関わるかを前向きに検討しなければならない」と話した。会員諸兄からも“是非参加したい”という声が聞こえてくる▲現時点の情報では祭典期間は7月6日から12日の1週間と決まったようで、外国合唱団が壇上で一緒に歌えるかどうかは未定。ヴァイヴァルス大使は「当協会が何らの形で参加するときは大使館が全面的に後援する。ラトビアと日本の友好を一層深めるためにも是非実現して欲しい」という意向を持っておられる▲私自身も98年の祭典に参加し、数万の人と一緒に歌うという興奮を味わい、ラトビア国民の優れた音楽性と伝統を実感したことがある。あの時は稲門グリークラブで参加し、途中ウィーンで単独演奏会を開いたこともあって、ラトビアの祭典で歌う曲も含め、出発前はかなりハードな集中練習をした▲これは加藤専務理事との最近の対話「来年、我々一行が壇上で一緒に歌うこと

を承認されたとしても、ラトビアの曲を少なくとも10数曲を覚えねばならない。各地から参加を想定すると練習などで大きな課題があるな。」「華やかな民族衣装を着て全国から集まる人々が溢れるリーグの雰囲気の中にいることだけでも大きな価値があるから、気楽な旅行にした方が良いかも知れない。」「途中欧州の都市で優れた音楽会を組み込むと喜ばれるかも知れない……」「当協会は多彩な会員で構成され、お互いの理解や親睦が深まって素敵な一体感が芽生えている。稲門グリーとは違った意味で中身の濃いラトビア行きになるだろうな。」「とにかく一度皆さんの意向をアンケートで聞いてみようよ」▲大使館の開設で、地理的には遠いラトビアという国を身近に感じる人が多くなった。私が行った10年前に比べると、経済面も急激に変化しているという。最近のEU諸国民の意識調査によるとラトビア国民は72パーセントがハッピーと答え、将来に明るい希望を持っている。何とか仕事のやりくりをして、是非もう一度行って善意なラトビアの人々と触れ合いたいと思っている。みんなで行けば遠くない。（徳）

コンサート案内

北條陽子ピアノリサイタル 「ラトビアの印象から」

3月19日（月）津田ホール

開場18:30 開演19:00

入場料3500円

※ラトビア共和国大使館及び当協会
後援

北條さんからの手紙「ラトビアの素晴らしい作曲家・ゲオルクス・ペレーツィスの作品を演奏できることを楽しみにしております（ピアノ組曲第4番＝日本初演）。モノトーンの不思議な響きの空間に、暖かい詩情が感じられ、何とも言えない魅力的な組曲です。近く発売するCDにはペレーツィス氏からメッセージを頂くことになりました。ラトビアは文化が豊かで音楽水準も高く、実際に現地に入って実感いたしました。最後に演奏するムソルグスキー「展覧会の絵」はラトビアの方々も楽しんで下さいました。更に構成力を練り励んでまいります」。

※他にドゥセック「ソナタAdur」、ドビュッシー「亜麻色の髪の乙女、バックの踊り」、中島はる「黒髪幻想曲」を演奏。

※武蔵野音大・同専門科卒。聖徳大講師。度々ソノリサイタルを開く他、日本シューマン協会に定期公演でデュオやジョイント演奏、ドヴォルザーク弦楽四重奏団と共演など海外活動も含め幅広い演奏活動が続ける。06年9月にラトビアでリサイタルと日本音楽のレクチャーコンサートを開いた。

※リサイタルの問合せは03-5458-7777（ムジーク・レーベン）

寄稿

作曲家ゲオルクス・ペレーツィスについて

菅野開史朗

この度、ピアニスト北條陽子さんのリサイタルにおいて、ラトビアの作曲家ゲオルクス・ペレーツィスの作品「第4組曲」が日本初演されることになり、10年来ペレーツィスのファンである者としてまことに嬉しく思う。かつて私は、日本にいながらCDでラトビアの音楽を聴き、中でも特にペレーツィスの音楽に惹かれていったのだが、1999年夏にリーガを旅した折には、幸運にも本人の知遇を得る機会に恵まれた。更に、趣味が高じてと言うのか、2003年夏にはJMLセミナー入野義朗音楽研究所において、彼の音楽を紹介する米を担ったのである。ちなみに、翌2004

年秋には、同研究所長の入野禮子先生をリーガにご招待したのだが、入野先生は『バルト海のほとりにて』などの著者、故小野寺百合子女史の姪御さんであらせられることは、何かの因縁かもしれない。

ペレーツィス氏は1947年生まれ。モスクワ音楽院に学び、アラム・ハチャトゥリアンに師事した。卒業後、ラトビア音楽アカデミーで長らく教鞭をとっている他、リーガ古楽センター初代所長も務めた。専門は音楽学で、バロック以前の対位法が主たる研究テーマだが、作曲活動も非常に旺盛である。大編成の管弦楽の作品は少ないが、ピアノ独奏、室内楽、合唱曲、歌曲など様々なジャンルの曲を手がけており、中でも長年友情を育んできた世界的バイオリニスト、ギドン・クレーメルに捧げた作品は数多い。

彼の作品等について、詳しくはインターネットのホームページを参照されたい。ただし長らく更新されていない。アドレスは<http://www.lmuza.lv/Composers/Pelecis/>である。

今年ペレーツィス氏は還暦を迎える。ここ最近、精力的に新作を発表しているが、中でも2006年11月初演の大作『ラトビア・レクイエム』は、今後ますますの活躍を予感させるに充分であった。

日本で比較的に容易に入手できるCDでおススメは、私がペレーツィスの音楽に夢中になるきっかけとなった、ピアノ、バイオリン、弦楽のための協奏曲「それにもかかわらず」が収録されている「わが故郷からーバルトの音楽」(WPCS-5905)。バイオリン独奏はクレーメルである。(かんの・かいしろう、リーガ在住、ラトビア文化アカデミー付属ノルディック・センター講師、ラトビア音楽図書館協会会員)

岡村喬生(当協会副会長) リサイタル

シューベルト作曲 歌曲集「冬の旅」
作品89 全24曲

4月1日（日） 14時開演

東京文化会館小ホール

ピアノ：イェルク・デームス

入場料4000円（全席指定）

※当協会後援

岡村氏のライフワークで、毎年歌い続けている。ジュネーブ、ローマ、ケルン、ウィーンでも、個性的な歌唱で絶賛を浴びた。14時00分から岡村氏によるプレトーク、14時30分から休憩なしで全曲演奏。

※リサイタルのお問合せは03-3501-5638（ミリオンコンサート協会）

稲門グリークラブ・シニア会 第8回（創立10周年記念） 定期演奏会

3月18日（日）14：00開演

大井町きゅりあん大ホール

指揮：井上博文、福井香織他

ピアノ：西岡瞳、松川儒

短 信

ラトビア少女合唱団「レソノ」来日 徳島、大阪で日本合唱団と交歓演奏

前号ラトビア情報でお知らせしたラトビアの少女合唱団レソノ（総勢25名）の日本スケジュールが決まった。4月11日朝、関空到着。2日間京都観光。13日徳島入りし14日吉野川交流コンサート（18:00鴨島公民館）、15日文化の森交流演奏会（13:00、15:00）。16日大阪へ。17日奈良観光。19日関西大学で合同演奏会。大阪観光。20日関空から帰国。

黒澤歩さんが仲介し、徳島フラウリッヒボカール赤池喜代さん、関西大八亀徳也さんが全面的にフォロー。徳島ではホームステイ、大阪では関西大のセミナーハウスが宿舎となる。

徳島では市長表敬訪問も予定。日本までの旅費、日本での移動費は自己負担で、メンバーは資金を確保するため懸命にアルバイトしたという。

福島「やながわ女声コーラス」 スウェーデン、ラトビアで演奏

福島在住の会員・板垣忠直が指揮する「やながわ女声コーラス」が4月17日から25日までスウェーデン・ラトビア演奏旅行を行う。総勢30名。一行は18日にストックホルム市に到着、19日ノルシェーピン市で演奏会を開き、20日にリガ到着、21日にラトビアコミュニティーセンターでコンサート（地元男声合唱団が賛助出演）。翌23日に、リガから230キロ離れたダウガピルス市に移動（同市主催の日本文化祭に正式招待される）、昼夜2度演奏会を行う（ロシア系合唱団が賛助出演）。日本民謡、わらべ歌、唱歌など日本の歌を歌う。23日には観光の他、伊達市市長のメッセージを携えてダウガピルス市市長を表敬訪問するスケジュールも組まれている。協会会員のケイコ・マクナマラさんがこの演奏旅行実現に協力した。24日、リガからコペンハーゲン経由で25日朝帰国予定。

久元祐子さんピアノリサイタル 7月31日 上野文化会館

当協会理事のピアニスト・久元祐子さんが7月31日、東京文化会館でリサイタルを開く。今回はラトビアの作曲家・ヴィートルズの作品を

司会：柿沼郭（NHKアナウンサー）
特別出演：岡村喬生
入場料 2000円
第一部 西岡瞳編曲集
男声合唱曲集「月下の一群」
第二部 岡村喬生オンステージ
日本のうた
※お問合せ 0429-58-1616（山口）

日本初演する。ヴィートルズ（1863-1948）はラトビアを代表する作曲家でラトビア音楽院の正式名称に冠されている（J. Vitol Academy of Music of Latvia）。

久元さんは、「過日のNEC投票コンサートで会員の皆様から頂いた一票一票に恥じない演奏をしたい」と話した。

信長氏編曲の「風よそよげ」 リーガ大聖堂少女合唱団が演奏

アイラさんが指揮したNHK東京児童合唱団定期演奏会のアンコールで、絶賛を博した信長貴富編曲「風よそよげ」が、アイラさんが指揮するリーガ大聖堂少女合唱団の演奏会で演奏されることが決まった。4月の予定。

5月下旬には、ラトビアを初訪問される天皇皇后両陛下の前で、リーガ大聖堂少女合唱団が演奏することになっている。同合唱団は第1回指揮者交流で、松原千振氏（常務理事）から日本の歌を指導された。

ラトビアの養護施設で史上最悪の火災事故

1月22日深夜、ラトビア・クルディガの養護施設で大火災が発生し死者24名が確認される史上最悪の火災事故になった。ラトビア外務省は26日から弔問受付を開始、28日にオールド聖ゲルトルート教会で、首相以下政府要人、親族友人らによる追悼の祈りが捧げられた。当協会も大使宛に深い弔意を表した。

07ユールマール国際ピアノコンクール

ユールマール市とラトビア共和国文化省などが共催する第5回青少年国際ピアノコンクールが5月14日から行われる。今回が5回目。8歳～11歳、12歳～15歳、16歳～19歳の3グループに分かれ、参加者の国籍は問われない。最高500ユーロの賞金が出る。予選第一ラウンドでは、ラトビア作曲家の作品が参加者母国の作曲家作品の演奏が義務付けられる。申込み締切りは4月1日。ご希望の方に募集要項を送付。氏名、住所、FAX番号を記入の上、下記へ。
メール katohr@earth.ocn.ne.jp
ファックス 04-7132-5423（加藤）



黒沢歩著「ラトヴィアの蒼い風」

庶民の暮らしを 生き生き描く

「木漏れ日のラトヴィア」に次ぐ、第二弾で、ソ連から独立後、激変の中で、したたかに静かに息づいている暮らしに焦点があてられ、「庶民の日常生活」がリアルに描かれている。「女の情景」の章には、女性の現状が仔細に報告される。まず、離婚率が60%を超える。これは、女性が仕事と育児を両立できる環境が整備されていることを示すと、歩さんはいう。男女比は4対6。女性の管理職は44%と、EU諸国の32%よりはるかに高いが、所得は男性より、15%低い。職業は女性が、教職、文化関連、医療という低給料。一方、男性は技術、産業、交通運輸という給料がより高い分野で働くという事



(株)新評論刊
2400円＋税
問い合わせ
03-3202-7391

実。人口動態は依然、減少傾向にあり、過去10年間に、総人口は20万人減り、229万4千人。平均寿命は男性が65.9歳、女性が76.2歳。男性はEU諸国で、もっとも「短命」という。ラトビアでは、母子家庭が多い。歩さんが日本語の授業で「父の日」を前に、「私のお父さんという作文を書いて下さい」と課題を出した時、「私、お父さんを知らないんです」と、生徒の一人が答えたという。「母の日」には、なんの問題もなかったの、思い至らなかったようだ。イネセさんも、そんな母子家庭。より高い収入を求め、イギリスへ出稼ぎに出た。離婚後、イベント会社を立ち上げたが、すぐ、行き詰まり、出稼ぎを決意。「娘の学費と生活のため」と、イギリスに渡り、清掃会社のドライバーになる。しかし、労働はきつく、契約と異なるため辞めた。帰国後、「ホテルの掃除係りになる」と、再び、母国を後にした。忙しい母の動きに振り回された一人娘、アグネセは見送りの時、目に涙をため、唇をきっと結んでいたという。「腰が痛く、手がひどいあかざれになった」と、歩みさんにメールが届き「文化に飢えている。オペラも見たい。でも、借金を返し、お金を貯めるまで、

帰らない」と、結んでいた。アグネセの誕生日には「白いバラ」が、海外の母親から届いたことを、見落としていない。

アイルランド、英国の出稼ぎ先は、商店、清掃会社、倉庫、洗車、建設現場など。その数4万人～12万人。出稼ぎ先で、100人を超す新生児が誕生している。出稼ぎの数だけではなく「優秀な人材の国外流出」の加速も問題。「女の情景の章」のレポートは、裏付ける資料を含め、ジャーナリストの目と、暖かい眼差しで描かれ、秀逸。

「猫のいる情景」は全体の3分の一を占め、「リガは、猫天国」が楽しく描かれている。どの家庭も犬、ネコだけでなく、ハムスターなど、ペットを飼い、家族の一員として扱われている。少子化で、一人っ子の家庭が多い中、「兄弟」でもあるのだろう。歩さんは、魚屋、牛乳屋、喫茶店など、あらゆる所で、目撃している。私（評者）も以前、文房具屋の展示ケースの中に、大きなネコが寝そべっているのに出会い、驚いた。病院で、歩みさんは始め、無愛想な療法士がネコの写真を見せたことで、親しくなった様子も紹介。「内」「外」の壁を、あっさりと破っ

たのは「猫のおかげ」と、感心。異邦人の歩さんを「拒みもせず」「媚びもしない」猫に強い思いを寄せているのが解る。

街の描写では、トロリーバスなど交通機関の話題も興味深い。乗車券を買うのに、大きな紙幣を出した乗車の外国人を「つり銭がない」と、「無賃乗車」として、車掌が引きずり降ろしたことを目撃。面倒な電話の掛け方や、ビルツ（サウナ）の楽しさ（178頁）など、庶民の様子も解る。「クマ」や「ウサギ」を意味する姓もあり（204頁＝女の情景。名前の付け方も面白い。大統領の姓名、ヴァイラ・ヴィーチェ・フレイベルグの中に、夫姓が含まれている。また、出稼ぎ先での反応（217頁）や、「ママ給料（育児手当）」「婚外出産数」（206頁）、さらに、料理「ジャガイモのパンクスカ」の作り方（104頁）、1頁をまるまる使った「猫の家」の写真や、そのエピソード（145頁＝猫のいる風景＝2章）などの答え、詳細は本書を購入し、ご確認を。この書を読み終えると、私ら庶民には「遠い国、ラトビア」がグリーンと、身近になったと、感じる。

評者 滝澤文一（リザン・ロシア国立大教授＝会員）



戦前のラトビアで大統領主催による独立記念日パーティーに出席した日本人女性

白石仁章
(外務省外交資料所)

前号では、ラトビアの独立記念日の由来につき書かせていただいたが、昨年11月18日に帝国ホテルで開催された在本邦ラトビア大使館主催の独立記念日祝賀レセプションにご招待を受け、大変楽しいひと時を過ごさせて頂いた。大勢の出席者が賑わう会場で、ふと思い出るのが、戦前、ラトビアで独立記念日に当時のウルマヌス大統領主催のダンス・パーティーに出席した日本人女性の手記であった。

その女性の名前は故小野寺百合子女史。同女史は、在ラトビア公使館（当時日本がラトビアに公使館を設置していたことについては、前号拙記事をご参照願います）附駐在武官であった小野寺信陸軍少佐（当時）夫人として1936年から38年までラトビアに滞在したが、出席した多くのパーティーの中で一番豪華だったのがウルマヌス大統領主催の独立記念日のダンス・パーティーであったという。同女史は、このパーティー開始の様子を「派手に着飾った軍楽隊が

広間のバルコニーで「軍隊ポロネーズ」の演奏をはじめると、一組の俳優を先頭に広間いっぱいポロネーズが展開する」と、生き生きと描写している（小野寺百合子『バルト海のほとりにて』44ページ、共同通信社、1985年刊）。このような豪華で華麗なパーティーが開かれていたことは、平和な時代のラトビアの繁栄振りを伝えるものと言えよう。また、ラトビアの独立記念日におけるパーティーの開始にあたって、ショパンの「軍隊ポロネーズ」（ポロネーズ3番）演奏されていたということは大変興味深い。ショパンは、当時ロシア等の圧政下におかれていた祖国ポーランドが独立を回復した際にこの曲を友人たちに披露しようと楽しみにしていたそうだが、周知のように彼の夢は生前にはかなわなかった。しかし、ラトビアの人々が自国の独立記念パーティーのオープニング曲として「軍隊ポロネーズ」を選んだということは、夢にまで見た独立を達成した喜びを表すためでもあったと考えるのは深読みのし過ぎであろうか？

ところで、小野寺女史によると、1930年代後半のラトビアではウルマヌス大統領による農業振興政策が功を奏して、肉類および酪農製品の個人消費量が既にヨーロッパの先進国並みになっていたという（同書47ペ

ージ）。ひるがえって、1991年に崩壊寸前のソ連から独立を勝ち取ったラトビアでは、今日農業も活況を呈し、チーズの生産も盛んだそう。昨年、帝国ホテルで開かれた独立記念日のパーティーで提供されたラトビア産のパルメジャーノンは、濃厚

な味わいと滑らかな舌触りで絶品であった。近く日本でもこのチーズが輸入されるそうだが、あの美味しいラトビア産のパルメジャーノンを再び味わえることが非常に待ち遠しく思われる。そして、その際には是非多くの人々に紹介したいものだ。

情報断片

○…東京マラソンは賛否両論がありましたが、私は大賛成で大成功を心から喜んでいる一人です。在日大使でたぐい、冷雨の中を完走されたヴァイアリス大使に大きな拍手を贈ります。私もマラソンが大好きで新聞社時代の晩年は皇居マラソンの常連でした。走りながら知らない人と親しくなったりもしました。激務の後などは心身がリフレッシュされて、こんなに素敵なものはありません（お金もかからないし…）。一度はフルマラソンに挑戦していましたが、（歳を重ね過ぎて）叶わぬ夢になってしまいました。考えてみると大使は私の息子たちと同世代。次は4時間を目指してください。○…当協会会員がいろいろ支援してほぼ同じ時期にリガから少女合唱団が来日し、福島から女声合唱団がラトビアへ出かけます。歌を通じた両国民の草の根交流こそが当協会の目標でもあります。実りある旅行をさ

れますよう祈ります。

○…当協会顧問でメディアでもお馴染みのレディー・マークス寿子秀明大教授が、このほど草思社から「日本はなぜここまで壊れたのか」を刊行されました。家庭崩壊が次々に起こる国になった原因をあらゆる角度から検証し、再生の道を探る問題作。人間・社会・家族・生き方を考えさせ、人生を変える1冊と好評を博しています。定価は1470円。

○…匿名という条件で、かつて早稲田大学グリークラブOB会会長も務めたY.I氏から、当会の発展に役立てて欲しいと20万円の寄付がありました。ご趣旨に沿うような活動を目指す努力をお約束して、お礼の言葉にいたします。

○…「Latvia」に対する大鵬薬品様の平成18年度5回の出稿が今回で終了しました（1回はNHK東京児童合唱団プログラムへ出稿）。おかげで、印刷費や発送経費を心配せずに編集作業ができました。これからも、より良い「Latvia」作りを目指します。（徳）

TAIHO 大鵬薬品

愛情一本。



チオビタ®・ドリンク

滋養強壮・虚弱体質・栄養補給

[用法・用量] 成人(15歳以上) 1日1回1瓶(100mL)を服用。タウリン1000mg 医薬部外品



**チオビタ®
ドリンク**



**チオビタ®
ドリンク
ヘルシー**